

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **200006630 A**

(43) Date of publication of application: 03.03.00

(51) Int. Cl. **G09G 3/20**
G09G 3/28
H04N 5/66

(21) Application number: 11232006

(22) Date of filing: 18.08.99

(30) Priority: 19.08.98 EP 98 98115607

(71) Applicant: **DEUTSCHE THOMSON BRANDT GMBH**

(72) Inventor: **CORREA CARLOS**
HIRTZ GANGOLF
WEITBRUCH SEBASTIEN
ZWING RAINER

(54) **VIDEO IMAGE PROCESSING METHOD FOR
 REMOVING INFLUENCE OF LARGE AREA
 FLICKER, AND DEVICE THEREFOR**

luminance weight of a picture element value to two
 sub-field groups 1, 2 is applied.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To remove a large area flicker artifact without causing an excessive cost by structuring a sub-field of picture element into two continuous groups and allocating an encoded word uniformly distributing an active sub-field period to two sub-field groups to a value of the picture element.

SOLUTION: A new sub-field structure for 50 Hz video standard is shown. A sub-field is structured into two independent sub-field groups 1, 2. Two sub-field groups 1, 2 are the same concerning the upper level sub-field from the uppermost level to the sixth level. Since the weight of a lower level side sub-field of more lower level is small and an outstandingly large area flicker is not caused, the lower level side sub-fields are unnecessary to coincide with each other. Here, a sub-field encoding processing for symmetrically distributing a



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-66630

(P2000-66630A)

(43) 公開日 平成12年3月3日 (2000.3.3)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	キーワード (参考)
G 0 9 G 3/20	6 1 2	G 0 9 G 3/20	6 1 2 E
	6 4 1		6 4 1 E
3/28		H 0 4 N 5/66	B
H 0 4 N 5/66		G 0 9 G 3/28	J

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願平11-232006	(71) 出願人	595033034 ドイツエトムソン・ブランド ゲーエム ベーク Deutsche Thomson-Br andt GmbH ドイツ連邦共和国 デー-78048 ヴィリ ンゲン・シュヴェニンゲン ヘルマン・シ ュヴェアー・シュトラッセ 3
(22) 出願日	平成11年8月18日 (1999.8.18)	(74) 代理人	100070150 弁理士 伊東 忠彦 (外1名)
(31) 優先権主張番号	9 8 1 1 5 6 0 7 : 8		
(32) 優先日	平成10年8月19日 (1998.8.19)		
(33) 優先権主張国	ヨーロッパ特許庁 (E P)		

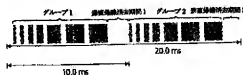
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 大面積フリッカの影響を除去するビデオ画像処理方法及び装置

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、大面積のフリッカによるアーティファクトを除去するサブフィールド構造及び符号化を備えた画像処理方法及び装置の提供を目的とする。

【解決手段】 本発明によれば、サブフィールドを類似した構造の2個のサブフィールドグループに分割し、2個のサブフィールドグループは上位側サブフィールドが一致し、下位側サブフィールドが異なる。サブフィールド符号化は、50Hzの大面積フリッカのルミナンス成分を最小限に抑えるようルミナンス重みを2個のサブフィールドグループに対称的に分布させる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ビデオ画像を構成する画素がデジタル的に符号化され、デジタル符号語はディスプレイの対応した画素がアクティブ状態にされる時間周期の長さを決定し、デジタル符号語の各ビットに対する間隔を表すサブフィールドが割り当てられ、所定の符号語によるサブフィールドの合計は上記対応した画素がアクティブ状態にされる上記時間周期の長さを決定する場合に、大きい面積のフリッカの影響を除去するビデオ画像処理方法において、画素の上記サブフィールドは、第1及び第2の2個の連続したサブフィールドグループに構造化され、アクティブ状態のサブフィールド周期を上記2個のサブフィールドグループに均等に配分する符号語が画素の値に割り当てられることを特徴とする方法。

【請求項2】 上記2個のサブフィールドグループは少なくとも上位側サブフィールドに関して同一の構造を有する。請求項1記載の方法。

【請求項3】 上記第1のサブフィールドグループの下位側サブフィールドは、一定の時間で、上記第2のサブフィールドグループの最初のサブフィールドから分離されている。請求項1又は2記載の方法。

【請求項4】 ビデオフレームの垂直帰線消去期間は第1及び第2の部分に分割され、第1の垂直帰線消去期間は上記第1のサブフィールドグループの最後のサブフィールドと上記第2のサブフィールドグループの最初のサブフィールドとの間に設けられ、第2の垂直帰線消去期間は上記第2のサブフィールドグループの最後のサブフィールドと次のフレーム周期の最初のサブフィールドとの間に設けられている。請求項1乃至3のうちのいずれか一項記載の方法。

【請求項5】 PAL方式及びSECAM方式のような50Hzビデオ標準に対し使用されるサブフィールド構造は、フレーム周期が14個のサブフィールドに細分され、フレーム周期中に画素の最大アクティブ状態周期が256時間単位の相対的な間隔を有するとき、上記第1のサブフィールドグループのサブフィールドは、サブフィールド番号1に対し、相対時間単位当たり1間隔、サブフィールド番号2に対し、相対時間単位当たり4間隔、サブフィールド番号3に対し、相対時間単位当たり8間隔、サブフィールド番号4に対し、相対時間単位当たり16間隔、サブフィールド番号5に対し、相対時間単位当たり24間隔、サブフィールド番号6に対し、相対時間単位当たり32間隔、及び、

サブフィールド番号7に対し、相対時間単位当たり40間隔を有し、上記第2のサブフィールドグループのサブフィールドは、

サブフィールド番号1に対し、相対時間単位当たり2間隔、

サブフィールド番号2に対し、相対時間単位当たり4間隔、

サブフィールド番号3に対し、相対時間単位当たり8間隔、

10 サブフィールド番号4に対し、相対時間単位当たり16間隔、

サブフィールド番号5に対し、相対時間単位当たり24間隔、

サブフィールド番号6に対し、相対時間単位当たり32間隔、及び、

サブフィールド番号7に対し、相対時間単位当たり40間隔を有する。請求項1乃至4のうちのいずれか一項記載の方法。

【請求項6】 フレーム周期が20msだけ継続するPAL方式、SECAM方式などの50Hzビデオ標準の場合に、上記第2のサブフィールドグループの最初のサブフィールドは上記フレーム周期の開始の10ms後に始まる。請求項1乃至5のうちのいずれか一項記載の方法。

【請求項7】 画素値に割り当てられる符号語を発生させるため、上記画素値は、特に4のような所定の数を法とする上記画素値の剰余を表す第1の成分と、上記所定の数の倍数であり、できるだけ一致するように選ばれた第2の成分及び第3の成分とからなる3個の成分に分割され、

30 上記第1の成分は上記第1及び第2の両方のサブフィールドグループの下位側サブフィールドを用いて符号化され、上記第2の成分は上記第1のサブフィールドグループの上位側サブフィールドとして符号化され、上記第3の成分は上記第2のサブフィールドグループの上位側サブフィールドとして符号化される。請求項1乃至5のうちのいずれか一項記載の方法。

【請求項8】 上記第2の成分及び上記第3の成分を一致させ得ない場合に、上記第2の成分が上記第3の成分よりも上記所定の数だけ大きくされる。請求項7記載の方法。

【請求項9】 ビデオ画像を構成する画素がデジタル的に符号化され、デジタル符号語はディスプレイの対応した画素がアクティブ状態にされる時間周期の長さを決定し、デジタル符号語の各ビットに対する間隔を表すサブフィールドが割り当てられ、所定の符号語によるサブフィールドの合計は上記対応した画素がアクティブ状態にされる上記時間周期の長さを決定する場合に、大きい面積のフリッカの影響を除去するビデオ画像処理装置において、

画素の上記サブフィールドが第1及び第2の2個の連続したサブフィールドグループに分割されるサブフィールド構造が使用され、

アクティブ状態のサブフィールド周期を上記2個のサブフィールドグループに均等に配分する所定の画素値に対する符号語を発生させる符号化手段が設けられていることを特徴とする装置。

【請求項10】 上記符号化手段はすべての起こり得る画素値に対応する符号語が格納されているテーブルを有する、請求項9記載の装置。

【請求項11】 プラズマディスプレイ又はデジタルマイクロミラーアレイディスプレイのようなマトリックス形ディスプレイを含む請求項9又は10記載の装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、特に、大きい面積のフリッカの影響を除去するためビデオ画像を処理する方法及び装置に関する。特に、本発明は、プラズマディスプレイパネル（PDP）のようなマトリックス形ディスプレイ、デジタルマイクロミラーアレイ（DMD）を備えたディスプレイ、及び、光照射のデュティサイクル変調（パルス幅変調）の原理に基づくすべての種類のディスプレイに光画像の画質を改良する種類のビデオ処理に密接に関係する。

【0002】

【従来の技術】プラズマディスプレイパネルはかなり以前から知られているが、プラズマディスプレイはテレビジョン製造者からの関心が徐々に増大している。実際上、この技術は、ビューイング角には制限がなく、真行きが制限された大型のフラットカラーパネルを実現することが可能である。ディスプレイのサイズは、典型的なCRT受像管に許容されていたサイズよりもかなり大きい。【0003】欧州テレビジョンセットの最新世代では、画質を改良するため多数の作業がなされている。その結果として、プラズマディスプレイ技術のような新しい技術を組み込むテレビジョンセットは、非常に優れた画像、或いは、従来の標準的なテレビジョン技術よりも優れた画像を提供しなければならないという強い要求が生じる。

【0004】プラズマディスプレイパネルは、スイッチをオン又はオフすることができる放電セルのマトリックスアレイを利用する。また、グリレベルが光放射のアナログ制御によって表現されるCRT又は液晶ディスプレイとは異なり、プラズマディスプレイパネルの場合に、グリレベルは1フレーム当たりの光パルスの数を変調することにより制御される。この時間変調は、視覚の時間応答に対応した周期に亘って視覚により積分される。静止画像の場合、この時間変調は、表示されたビデオ標準のフレーム周波数に一致するペース周波数で繰り返す。CRT技術によって知られているように、ペース

周波数50Hzの光放射は大きい面積のフリッカを誘起し、このフリッカは100HzのCRTテレビジョン受像機のフィールド繰り返しによって除去することができる。

【0005】光放射のデュティサイクルが非常に短いCRTに対し、PDPの光放射のデュティサイクルは中間のグリレイに対し50%程度である。これは、スペクトルの50Hz周波数成分、すなわち、大きい面積のフリッカアーティファクトの振幅を除去するが、PDPのサイズの方がより大きくなることに起因して、ビューイング角が広がり、面積の小さいフリッカであっても画質の面で好ましくない。近年、PDPのサイズ及び明るさは増加する傾向にあるので、将来的にこの問題はより一層重大になる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、特に、100Hzテレビジョン受像機によって要求されるような余分なコストを負うことなく、50Hzビデオ標準に対し、プラズマディスプレイパネルの大幅なフリッカアーティファクトを除去する方法及び装置を提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記本発明の目的は、請求項1及び請求項9に記載された手段によって実現される。請求項1に係る発明によれば、大きい面積のフリッカの影響の除去は、フレーム周期に対し最適化されたサブフィールド構造を利用することにより実現される。画素のサブフィールドは、2個の連続したグループに最適化され、アクティブなサブフィールド周期を2個のサブフィールドグループに均等に配分する符号語が画素の値に割り当てられる。

【0008】この解決法は、50Hz周波数成分が1個のサブフィールドグループしか使用されない場合よりも実質的に低減される利点がある。50Hzの密な照明周期の繰り返しは、100Hzの粗い照明周期の繰り返しによって置き換えられる。この方法を用いることにより、PDP制御部の複雑さが多少増加する点を除いて実質的に余分なコストは追加されない。

【0009】本発明の方法の更なる実施例は従属した請求項に記載されている。二つのサブフィールドグループ（最上位サブフィールド）に対し同一の構造を使用することは、二つの照明周期が類似した特性を有することを保証するために役立つ（請求項2を参照のこと）。最下位サブフィールドの重みは小さく、重大な面積のフリッカを生じさせない。このため、最下位サブフィールドは二つのサブフィールドグループに対し同一であることが要求されない。

【0010】ビデオゲームのビデオレコーダによって発生された信号のように水平ライン同期信号に変化が生ずる標準外のビデオ信号を表示するため、垂直消滅消去

間は、サブフィールドがアドレス指定された場合に使用されるべきである（請求項4を参照のこと）。この垂直掃線消去期間は、連続したサブフィールドグループのペア毎に挿入され2本の垂直掃線消去期間によって置換される点で有利である。これは、100Hz CRTベースのテレビジョン受像機と類似している。

【0011】請求項5に記載された具体的なサブフィールド構造は、50Hzビデオ標準の場合に有利である。NTSCのような60Hzビデオ標準に対し最適化されたサブフィールド構造と比較して、フレーム周期が延長されているので、より多数のサブフィールドを簡単に使用することが可能である。請求項9に記載された装置の有利な実施例は、従属的請求項10及び11に明瞭に記載されている。

【0012】

【発明の実施形態】以下、添付図面を参照して本発明の具体的な実施例を詳細に説明する。ビデオ処理の分野において、ルミナンスレベルを8ビットで表現することは非常に一般的である。この場合、各レベルは以下の8ビットの組合せによって表現される。

【0013】 $2^0 = 1$, $2^1 = 2$, $2^2 = 4$, $2^3 = 8$, $2^4 = 16$, $2^5 = 32$, $2^6 = 64$, $2^7 = 128$

ブラズマディスプレイパネル技術を用いてこのような符号化スキームを実現するため、フレーム周期は、屢々、サブフィールドと称される8個の照明周期に分割され、各サブフィールドは8ビットの中の一つに対応する。ビット $2^7 = 2$ に対する照明パルスの間隔は、ビット $2^0 = 1$ に対する照明パルスの2倍である。これらの8個のサブ周期を組み合わせることで、256個の異なるグレイレベルを構築することができる。例えば、グレイレベル92には、2進数表記でデジタル符号語%1011100が対応する。サブフィールドは、等振幅及び等間隔を有する多数の小さいパルスにより構成される。動きが無い場合、観察者は、すべてのサブ周期を約1フレーム周期に亘って視覚的に積分し、正確なグレイレベルを感じる。上記のサブフィールド構造は図1に示されている。

【0014】ブラズマディスプレイパネルに対する殆どの開発は、NTSCのような60Hzビデオ標準に対して行われている。これらのビデオ標準に対し、改良されたサブフィールド構造は、アーティファクトを回避し、画質を向上させるため巧く利用されるべきである。60Hzビデオ標準に於一般的に使用されるサブフィールド構造の一例は図2に示されている。サブフィールド数は、12個のサブフィールドSFに増加されている。サブフィールドの相対的な間隔は図2に与えられている。すべてのサブフィールドがアクティブ状態にされた場合、照明フェーズは255相対時間単位の相対的な間隔を有する。個255は、ブラズマディスプレイパネルに

使用される上記のルミナンスレベル若しくはRGBデータの8ビット表現を使用し続けるため選択される。最上位から7番目までのサブフィールドの相対的な間隔は、32相対時間単位である。ブラズマディスプレイパネル技術の分野において、サブフィールドの相対的な間隔は、屢々、サブフィールドの「重み」といわれ、以下でもサブフィールドの重みと呼ぶ。各サブフィールドSFの間には、光が放出されない短い時間周期が存在する。この時間周期は、対応したブラズマセルのアドレスを指定するため使用される。最後のサブフィールドの後に、光が放出されないより長い周期が追加される。この時間周期は、ビデオ標準の垂直掃線消去期間に対応する。このような垂直掃線消去期間の実現は、ビデオカセットレコード又はビデオゲーム等で発生される標準的なビデオ信号を取捨律するために必要である。

【0015】このサブフィールド構造におけるグレイレベル92のデジタル表記は、例えば、00000111100である。この数字は、12個のサブフィールドに対応した12ビットの2進数である。これは、フレーム周期中に対応した画素の照明用パルスを抑制するため使用される。重みが等しい7個のサブフィールドが存在するため、同じグレイレベルに対し別の数値の12ビット符号語が存在し得ることに注意する必要がある。

【0016】図3には、本発明による50Hzビデオ標準用の新しいサブフィールド構造が示されている。60Hzビデオ標準用のフレーム周期は16.6msであり、50Hzビデオ標準の場合にフレーム周期は20msであり、50Hzビデオ標準の方が低い。これにより、50Hzビデオ標準ではより多数のサブフィールドをアドレス指定することができる。図3に示された例の場合に、サブフィールドの数は14まで増加される。フレーム周期に追加された時間は追加されたサブフィールドの数よりも大きい（20.0/16.6 = 1.4/1.2）。サブフィールドの増加によって余分なコストを生じさせない。

【0017】サブフィールドは二つの別個のサブフィールドグループG1、G2に構造化される。1個の垂直掃線消去期間は、2個の垂直フレーム掃線消去期間VF B1及びVF B2によって置換され、一方の垂直フレーム掃線消去期間はフレーム期間の最後に存在し、他方の垂直フレーム掃線消去期間は2個のサブフィールドグループの間に存在する。

【0018】2個のサブフィールドグループは、最上位から8番目までの上位側サブフィールドに関して同一であり、より下位の低位側サブフィールドに関して異なる。低位側サブフィールドの重みは小さく、善い大面積のフリッカを生じさせないで、低位側サブフィールドは一致していなくてもよい。大面積のフリッカの影響を除去するため、所与の画素値のルミナンス重みを二つのサブフィールドグループに対称的に配分する所与のサ

サブフィールド符号化処理が適用される。二つのサブフィールドグループの間のルミナンス重みの小さい差は、小さい50Hzのルミナンス周波数成分、すなわち、大面積フリッカの小さいレベルを表す。サブフィールド符号化処理の場合、複雑な計算は必要ではない。256通りのグレイレベル/画素値に対する符号語が格納された対応したテーブルを使用することができる。

【0019】以下では、この符号化処理について説明のため好適な例を用いて詳細に説明する。ここでは、グレイレベル/画素値が87である場合を想定する。この数

は、以下の形式で表現することができる。

$$87 = 3 + 44 + 40$$

このように値87は3つの成分に分割される。第1の成分である

*

$$87 =$$

$$1 * 1 + 1 * 4 + 0 * 8 + 1 * 16 + 1 * 24 + 0 * 32 + 0 * 40$$

$$1 * 2 + 0 * 4 + 0 * 8 + 1 * 16 + 1 * 24 + 0 * 32 + 0 * 40$$

すなわち、

$$87 = 45 + 42$$

$$45 = 1 + 4 + 16 + 24 \quad (\text{グループ1})$$

$$42 = 2 + 16 + 24 \quad (\text{グループ2})$$

であり、2進数表現では、

$$87 = 00110010011011$$

である。

*

$$92 =$$

$$0 * 1 + 0 * 4 + 1 * 8 + 1 * 16 + 1 * 24 + 0 * 32 + 0 * 40$$

$$0 * 2 + 1 * 4 + 0 * 8 + 1 * 16 + 1 * 24 + 0 * 32 + 0 * 40$$

すなわち、

$$92 = 48 + 44$$

$$48 = 8 + 16 + 24 \quad (\text{グループ1})$$

$$44 = 4 + 16 + 24 \quad (\text{グループ2})$$

であり、2進数では、

$$92 = 00110100011100$$

と表される。

【0021】図4は、本発明によるビデオ画像処理装置のブロック構成図である。本発明の装置は、プラズマディスプレイパネルマトリックス型ディスプレイと一体的に統合しても構わない。また、この装置は、プラズマディスプレイパネルと接続される別個のボックスに設けてもよい。同図には、装置10の全体が示されている。ビデオ信号は入力ラインV_iを介してこの装置10に供給される。ビデオ処理ユニット11では、ビデオ信号がデジタル化され、Y、U、Vデータが生成される。プラズマディスプレイパネルは順次走査モードでアドレス指定されるので、インターレースビデオ標準は、先行した変換を必要とする。従来より知られている多数のインターレース走査・順次走査変換方法を使用することが可能である。また、プラズマディスプレイパネルはRGBデータを用いて動作するので、YUV/RGBデータ変換もこのビデオ処理ユニット11で行われる。発生されたR

$$* 3 = (87 \bmod 4)$$

は、二つのサブフィールドグループの下位側サブフィールドによって符号化されるべき成分である。第2の成分及び第3の成分は、両方のグループの最上位から8番目までの上位側サブフィールドが4の倍数の重みをもつため、4の倍数であり、できる限り一致するように決められる。本例の87の場合のように、両者を一致させ得ない場合、グループ1のサブフィールドで符号化されるべき第2の成分は4よりも大きくされるべきである。本例では、44はグループG1のサブフィールドを用いて符号化され、40はグループ2のサブフィールドを用いて符号化される。この規則を用いることにより、最終的に得られる符号は、

※【0020】この符号化処理の場合に、二つのサブフィールドグループの間の重みの差は決して5よりも大きくならない。次に、グレイレベル/画素値が92である第2の例を説明する。

$$92 = 0 + 48 + 44$$

と表現できるので、

*

GBデータはサブフィールド符号化ユニット12に転送される。サブフィールド符号化ユニット12において、各RGB画素値に対し、対応した符号語がテーブル13から選択される。これらの符号語は、プラズマディスプレイパネル10のアドレス指定ユニット14内のフレームメモリに転送される。アドレス指定ユニット14は、これらのデータを用いてプラズマディスプレイ15を制御する。

【0022】60Hzビデオ標準の場合に、大面積のフリッカの影響は、50Hzビデオ標準の場合よりも妨害性が少ない。上記の本発明の説明は、50Hzビデオ標準についてなされているが、勿論、本発明は60Hzビデオ標準の画質を改良するために使用できる。図4のブロックに示された構成要素は、ハードウェア部品だけではなく、コンピュータで実行可能な適当なコンピュータプログラムとして実現してもよい。

【0023】本発明は、上記の開示された実施例に限定されるものではない。本発明は、特許請求の範囲に記載された事項の範囲を逸脱することなく、種々の変形が可能である。例えば、使用されたサブフィールドの数及び重みは、実装形態毎に変化しても構わない。グレイレベル変化用のパルス幅変調方式のような種々の制御を用いて制御されるあらゆるタイプのディスプレイは、本発明

と組み合わせて使用することができる。

【図面の簡単な説明】

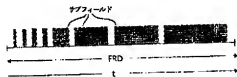
【図1】プラズマディスプレイパネルのサブフィールドの概念説明図である。

【図2】60Hzビデオ標準に使用される典型的なサブフィールド構造の説明図である。

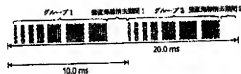
【図3】50Hzビデオ標準用の新しいサブフィールド構造である。

【図4】本発明による装置のブロック構成図である。 *

【図1】



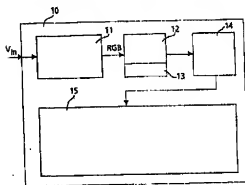
【図3】



【図2】



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 カルロス コレア
ドイツ連邦共和国, 78056 ヴィリンゲン・シュヴェニンゲン, リヒテンベルガー・ヴェーク 4
(72)発明者 ガンゴルフ ヒルツ
ドイツ連邦共和国, 96317 クローナハ, ブルンネンヴェーク 21

(72)発明者 セバスティアン ヴァイトブルフ
ドイツ連邦共和国, 78087 メンヒヴァイラー, カポイルシュトラッセ 17
(72)発明者 ライナー ツヴィン
ドイツ連邦共和国, 78052 ヴィリンゲン・シュヴェニンゲン, ポツェナー・シュトラッセ 2